WASON
HQ
1164
J74+
Aug. 1894
no. 392

明治十八年初刊

女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百九十二號

要目

遠征の軍士を憶ふ

遙かに同胞將士が苦戰を憶ふ、吾輩留まつて內にあり、公務豈に彼等に劣るべけんや、決死豈に彼等に恥づべけんや。

基督教徒看護婦團

漫にナイテンゲールを慕ひ徒らにザツクス女史を贊するなかれ。聖機眼頭にあり、古人今事を指ざす。如今盡すべき所なからずや。

味噌汁は農家の牛乳

農學士齋藤音作君此の警語あり、歸省の女生に公案を與へて、故郷に探撿すべき問題を寄す。有益にして斬新の文。

ヘルバルトの母

今の教育界は、ヘルバルトの反響なり、此の人何如にして世に成りしか、須からく先づ其母を知るべし。

花圃女史の小說

橋松佳話中の一偉女夫、經綸遠大、玆に幾多の大事業を結構し了んぬ。其の終末を看よ。

明治二十七年八月十一日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

第三百九十二號目録

社説
遠征の軍士を憶ふ
基督敎徒看護婦團
强兵の一策、營外常備軍の組織

開書
味噌汁は農家の牛乳なり（農學士　齋藤音作）

徒然草
余等の望み（無光）
夏の朝（〇〇生）

史傳
園照女史が謂ふ英國の某婦人
ミス、マクリーン小傳（長坂毅）
ヘルバルトの母（下）鷗村

文しらべ
家康老後のをしえ（中）

小説
橋松佳話（完結）花圃女史

書架
亞米利加の未婚婦人
沙翁の禽獸觀
英國最富女子

時報
學齡女兒の就學員數の僅少なる原因〇宮城女學舍〇裁縫科と反對◎日本の女敎員數〇横濱矯風會規則〇褒賞〇月次御彙題詠進の和歌〇巾幗の從軍願〇女子慈善館〇貴婦人の金員醵集◎本誌前號正誤◎日本赤十字社錄事

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百九十二號

明治二十七年八月十一日發兌

社説

遠征の軍士を憶ふ

嗚呼、遠征の軍士、國の爲めに出でゝ外敵と戰ふ。神洲の光榮、汝が上にあり。日本の勢威、汝が上にあり。汝、義勇、公に奉じて、身を献げて戰ふ。汝、足を揚げて斯土を離れ、船に艤して斯地を去らんとせし時、汝は既に死を決したり。汝、今や、京城に戰かひ、豐島に戰かひ、成歡に戰かひ、また牙山に戰かへり。而して、すべての戰かひに勝てり。其の勝つや、大勝なりき。左れど、少數の死なきと能はざりき。汝が同胞の死せしもの、既に一百人。將校某等死せり。騎兵、馬を躍らしつゝ死せり。水士、巨砲に裝ほひつゝ死せり。陸兵、殊鬪、險を冒さんとして死せり。彼等が死は、すべて光榮の死なり。左れど到底彼等は死したりき。

嗚呼、軍士、何の故によりて斯くの如く率先し、また何の故によりて斯くの如く死せしや。彼等は、吾等と等しく日本人也。彼等が、國恩を崇むると、吾等に倍するにあらず。彼等は、先天の約束ありて、戰かひには獨り進んで責を負はざる可らざるの義務あるにもあらず。然るに、彼等が斯の如く率先し、亦斯の如く死を急ぎたる所以のものは何んぞや。吾等は、護國の責任に於て、彼等に讓るべきもの乎。吾等は、國權伸張の奉公に於て、彼等に劣るべきものか。否な、吾等は等しく日本人也。然るに、吾等は枕を高ふして國内にあり、彼等ひとり異境に屍をさらして打死せし所以のものは何ぞや。」

嗚呼、其理は淡一の事のみ。彼等は、或る年齡の男子にして五躰强健なりしかば、則はち、護國奉公のあらゆる事業のうち、兵士たるとの責めを分擔せし耳。豈に他に特殊の理由あらんや。國民たるの義務は同一なり。陛下の臣民たるとは同一なり。邦家に負ふ所ろあるは同一也。大日本の天職の爲に盡すべきとは同一也。而るに、彼等は、兵士たるの故に、先

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

づ出でて外に戰かひたり。而して、其戰かふとの勇猛なりしが故に、打死せり。

嗚呼、外に出でて戰かひたる同胞の献身斯の如し。內にある人士の戰かひは、如何ん。遠征の軍士が決死かれの如し。內にある吾等が所存、いかん。

夫れ、敵は、何處にも伏す、戰かふべきもの、亦た國內の所所に存せずや。一家には、一家の戰かふべき敵あり。一村には、一村の戰かふべき敵あり。如何なる事業にも、如何なる市町にも、皆な敵なきと能はず。而して、此等と戰かふは即はち國內眼前の戰かひにはあらずや。戰かつて之に勝ち、打つて之を斥ぞくるは、即はち國內の戰士が義務にあらずや。

嗚呼、國內當今の形勢や、百弊醸湧し、千菲横流す。到る所ろ、討つて倒ほさざる可らざるもの滔々存す。もし彼の遠征の同胞を憶はんものは、ひとり戰かひを韓山の事として、空しく高枕安眠すべからず。正に、同一の覺悟、同一の決死を以て、之と相ひ戰かはずんばある可らず。苟くも、軍士、身を献じて遠く征するの決心とひとしき者あらば、何の戰かひか、大勝を博取せざるとを憂ひん。

嗚呼、新聞社、號外を配布すると、何の手數ぞ。快電を聞きて狂喜すると、何んの雜作ぞ。今年の暑氣、何んの酷烈ぞ。氷水の價ひ高き、何の不自由ぞ。もし一と度び遠征の軍士を憶ひて、其の熱天熱砂の間だに、血を流し骨を枯らすの大激戰を想起せば、吾等國內に留守するもの、安くんぞ、奮興せざるを得ん。遠征の軍士、吾國に負かず、請ふ吾等も亦た吾國に負かじ。遠征の軍士、吾等に負かず、請ふ吾等も亦た彼等に負かじ。もし優悠懶怠せば、吾等、何の面目を以つて、再たび同胞諸將士を見ん。

基督教徒看護婦團

空しく歷史を繙かへして徒らに成敗の機に惜しむとなかれ、活機はつねに眼前にあり。徒らに傳記を暗らんじて空しく古人を景慕するとなかれ、古人の如くすべき事情目前にあり。むかし、クリミヤの戰かひに於けるナイランゲール孃の事跡を憶ひ、近年死せしチックス女史が南北戰爭に於ける偉勳を慕はんものは、速やかに徭つて直ちに身を以つて行なふべき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の機會眼頭に顯然たらずや。

吾人は、こゝに看護を事とする姉妹諸君に警告す。就中、基督敎徒にして、此の聖なる事務に關係せる姉妹に檄す。諸君何んぞ奮つて、彼のヂックス、ナイテンゲールの志を繼がざる。同胞の將士、異境に苦戰痛鬪せり。其傷深からずとするも、誰か能く之を看せん。看するもの無きにあらずとするも、誰か能く基督敎徒看護婦の信切至愛なるに及ばん。

惟ふに、遠からずして、諸君を必要すべき事情到來すべし。韓山の報道、久しからずして、諸君が起たんことを要求すべし。此時にあたつて、直ちに起ち、身を挺して其需めに應ぜんとするの覺悟、準備、先づ完からんことを望む。これ吾人が玆に檄して、豫じめ諸姉妹に告ぐる所以なりとす。

語ばを寄す、四方の基督敎徒看護婦諸君。何んぞ速やかに相會して、一團をつくり、具さに万一に準備して、帝師の需むる所ろに應ぜんとはせざる。

強兵の一策

營外常備軍の組織

帝國に常備の兵あり。常備にして足らずんば、豫備のあるあり。豫備にして尙ほ足らずんば、後備のあるあり。何んぞ義勇兵を假るに及ばんやとは、氣慨ある軍將が抱負する所ろなるべし。帝國まことに兵制に具備せり、何すれぞ事あるの日、乍まち早慌として素人の助力を要むるに及ばんや。

然りと雖ども、吾人は元來帝國の兵制に憾みを懷くものなり。單に常備六万の兵を置いて之に滿足するものにあらざる也。帝國尙武の氣象は、ひとり斯の如き制度によつて遺憾なく揚發す可らずと信ずるもの也。此を以て、久しく一案を懷き、之を大方に質さんことを欲せり。然るに、今まや、日清に事ありて、戰氣大ひに揚れり。況んや、帝國今回の抱負極めて洪大なるものあるに於てをや。惟ふに、今日は愚案を示して、同胞の一顧を要むべきの時機か。

吾人は信ず、日本帝國が亞細亞洲に於ける責任極めて重し、而して、彼が全世界に於ける責任に至ては、更に重しと。彼は、其大責任を盡さんが爲めに、大なる實力を有せざる可らず。其文に於て、其德に於て、大實力を有せざる可らざると共に、其武力に於て亦大ひに畜積する所ろなかる可らず。武

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

力は獣力にあらず、慈悲心ある威力なり。所信を徹貫し、抱負を主張し、大慈善を發揚するには、之に伴つて之が實行の根基たるべき武力なかる可らず。故に、方今の宇内に立ちて列國間に吾帝國の天職を盡さんとするに於ては、之に相應したる大なる武力なかる可らず。

帝國今日の兵備たる、護國々防の爲めには、足らざるとを覺えず。如何なる大國あつて、吾國を侵さんとするも、悉とく能はじ。此の事の爲めに憂ふべきもの一もあるなし。

但だ夫れ天が吾帝國に下したる大使命を盡さんが爲めに、其の大なる抱負を主張し、堂々積極的に海外に大運動を施こさんとするが爲めには、未だ今日の兵備を以て足れりとす可らざる也。

封建の世、士族四十万、弟々、家來を合すれば、優に二百万を越ゆ。彼等は、皆な身命を堵して武道に献牲したるもの也。日本の兵備は、万國に冠たりしと云ふべし。

今は則はち然らず。士の常職解かれて、軍事はたゞ常備の兵に委ねらる。士人皆な刀を脱して、俗事に務め、絶えて軍務を學ぶとなし。封建の老士墓に入ると多く、尙武の氣象衰ろふると早し。今にして救はずんば、日本の武力は、極めて薄細なるものとならんか。

人曰く、文明の兵は、錢を要す、國富まざれば、兵を強くすると能はずと。吾人も亦た悉皆富を要せずと云はず。然れども強兵必らずしも錢のみを要せず、武力を増すの手段は、必らずしも所云る常備兵を殖やすにあらずと信ず。

見よ、徴兵適齡の人、たとひ身軆合格すとも、數の過多なるが故に悉皆兵籍に入るとを得ず、僅かに籤をさぐつて當任の人を撰拔するにあらずや。不幸にして、此の撰に漏れたるものは、何によつて漏れし。云く、籤に當らざるが故と。あゝ、籤と云へる、無生、無意識の一器械は、壯年男子が兵となりて國に盡すとを許しもしくは否むの全能權を所有する也。此の全能者によつて斥ぞけられたる壯年の遺恨幾干ぞ。而して、帝國の武力は、如此くして其多量を失なふ也。

吾人は信ず、兵の操練は、必らずしも三年を要するものにあらずと。又信ず、活戰の實地に適せしむべき操練は、極めて大躰なるものにして可なりと。之を當路の人に質すに、敢て異議なきものの如し。吾人こゝに於てか、敢て一策を立つ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

策や奇異なし。先づ彼の鑑に外れたる身躰合格者を以て、營外常備兵を組織するにあり。此の兵や、自由に其家に住まひ、自由に其職に就くことを許す。左れど、其の在住地によつて、其の在住地の軍籍に屬し、其の去來出入の管督を受くべき事、其他出來べき限りに於て常備兵たるの管督を受くべきは勿論なり。而して、此等の營外常備兵は、一週一日、即はち日曜日を定めて、操練の日とし、此の一日必らず軍事の教育に從がはざる可からずと定めん。而して、此の軍事の教育や、極めて其の大躰なるものを施こさば、在籍三年にして、實地活戰の役に任ずるに於て敢て足らざることなけん。

蓋し之が爲めに、在籍者は、其の常職を行なふの上に多少の不便不利益を感ずべし。左れど、こは邦家の爲めに、歡こんで忍ぶべし。況んや、もし當撰入營して、三年常備の役に從はば、所云る其の常職は毫も施行しがたきものなるに於てをや。

たとひ職工の徒、之が爲めに一日の賃銀を損ずることありとも、彼等が徒費すべき錢を之が爲めに儉すれば、足らざることを覺えじ。況んや、官省、公場、大なる製造所等に雇使せらるるものに於ては、官、別に其取扱法を制し、在籍者の大なる不便利不利益となるまじき取計らひの爲され易きをや。

凡そ、兵の品格を損すること大なるは、彼の徴兵猶豫の如き制度にあり。何如なる官立學校にあるものと雖ども、國家の徴兵に猶豫を與ふべからず。學文あるもの、兵となるに及んで初めて兵の品格を高ふするにあらずや。吾人は、在營常備にすら、彼の猶豫を與へざらんことを希望す。況んや、此の所云る營外常備兵に於てをや。

吾人は固より愚案の大躰を説くのみ。左れど、大躰の精神は之によりて明白ならんことを信ず。此の策にして行れば、國家錢を費やすこと極めて少なくして、兵は凡そ八九倍とならん。此の營外常備兵にして、亦た營外豫備となり、營外後備とならば、日本の兵力は、十年にして、驚ろくべき巨大のものとならんとす。

此の案や、單に兵力の爲めのみならず。尚武の爲め也。尚武の爲めとは、氣風の爲め也。壯年男子の氣風、之よりして、一變し、柔弱憶病の卑劣久しからずして化せん。之れ實に、新日本に於ける、武士の養成法なり。故に亦た新日本に於け

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

る、武士氣象の制裁の法なり。此案に着手する、今日より好きはなし。此案を發言する今日より好きはなし。今や、吾軍、連戰連勝せり、何んぞ支那兵の爲めに、吾兵備を足らずとせんや。眞とに他に大抱負のあるあれば也。

小詩戯述幽居事、
後有高人識此心。

閑書

味噌汁は農家の牛乳なり

歸郷女生に一問題を贈る

農學士 齋藤音作

左は、明治女學校生徒が夏休歸省するに對し、撿究の問題として授けられしもの也。廣く他の有志にひとしく問はんことを欲して、こゝに其說の筆記を閑書として公示す。

我邦同胞を諸外國人民に比較するに身躰の矮小にして虛弱短命なるは爭ふべからざるの事實なり試に西洋婦人と同行する時は毫も歩行に加減を要することなしと雖ども若し日本婦人と同行せんか十中八九は勉めて徐行するも尙ほ且つ回顧して待たざるを得ざるの塲合を生ず況んや今日は彼の兵卒に於て年々其身尺を減するの傾きあるを觀る如きは實に慨歎の至と謂ふべし然れども本邦人も其昔は長大强壯にして且つ長命なる人民なりしと古代の甲冑及歴史に徵して明かなる處なり然らば今日の矮小虛弱短命に陷りたる原因は何ぞや之を精査探究する時は其數元より夥多あるべしと雖ども就中其主因と認むる處のものは日々に用ゆる飲食品の他邦に比して甚だ不良なると是れなり實に我邦普通の飲食品は到底巨大强健なる骨格を養成保持するに足らざるを觀る（彼の哺乳期の小兒の敢て白晳人種に劣らずして而して一旦哺乳を廢するの時期に至れば彼に劣る如きを觀るも亦以て食料品の劣等なる一證と爲すに足る）今ハックスリー氏の生理書に依るに成長せる白晳人種廿四時間中の排泄量は平均凡そ左の如くなりと

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

排泄物	肺臓より	皮膚より	屎	尿	計
水	八五 〇〇 匁	一七〇 〇〇 匁	三四 〇〇 匁	三九一 〇〇 匁	六八〇 〇〇 匁
窒素	〇、〇〇	〇、一七	〇、六八	四、二五	五、一〇
炭素	五六、一〇	一、七〇	七、八二	二、三八	六八、〇〇
其他	一四七、九〇	一〇、〇三	五、一〇	一〇、三七	一七三、四〇
計	二八九、〇〇	一八一、九〇	四七、六〇	四〇八、〇〇	九二六、五〇

即ち成長したる白皙人種は一晝夜に於て凡そ六百八十匁の水と五匁一分の窒素と六十八匁の炭素と其他百七十三匁四分の諸元素とを排泄するが故に其健康を保持する爲めには是非とも此等の費消を補塡するを要するや明かなり吾等日本人種も幾分の減少は見るべきも亦大差なき費消を爲すや必せり然るに吾人々類は水は直ちに之を得ると難からずと雖ども空中の游離窒素は如何に多きも到底之を吸入して以て身躰を養ふ能はず又木炭石炭は如何に多きも到底之を食ふて以て消化する能はざるなり茲に於てか吾等日本人は少くも左の如き養料を喫食せざるべからず

水	蛋白質	澱粉及糖	脂肪	無機質	固形物計	全量總計
六八〇 〇〇〇 匁	三四 五八〇 匁	一〇七 四六四 匁	二二 三四四 匁	七 九八〇 匁	一七二 三六八 匁	八五二 三六八 匁

然るに日本人は米食を以て主とす今平均一日に六合の白米を六割五分の水分を有する飯に炊きて之を食用するとし其米の重さを一合四十匁と爲して計算する時は此中には水三百七十匁八分蛋白質十四匁六分澱粉及糖百七十四匁四分脂肪四匁八分無機質二匁三分を有するなり即ち澱粉及糖は既に過剰なりと雖ども養料として最も必要なる蛋白質の量は尚ほ廿匁程不足なるを知るべし况んや米飯の蛋白質は充分能く消化するも其消化の割合は七割五分以上に登ることなきが故に今之を最大限にするも食後消化すべき即ち養料となるべき蛋白質の量は僅々十一匁弱にして其三分一にも足らざるに於てをや故に若し米飯のみを以て吾人の最も大切なる蛋白質を補塡せんと欲せば少くも一日凡そ一升九合の米を炊きて食せざるべからず然るときは一日百七十二匁餘にて充分なる固形物が凡そ六百匁となりて甚だ不經濟なるのみならず斯る多量を食用するとは到底實行し得べきにあらざるが故に食し得る米飯の不足は必ず之を他に向つて求めざるべからず茲を以て吾人は常に米飯と共に蔬菜、魚肉、味噌、醤油及稀には鳥獸の卵乳肉等を併用し之によりて水及び無機質(多くは食鹽)は寧ろ過剰なる程に補攝し脂肪も之を得る難からずと雖ども獨り彼の最も大切なる蛋白質に至りては其供給常に多くは不足なるが故に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

縱令我國人民は充分强壯健全に發達すべき素因ありとするも結局虛弱不健康に陷らざるもの稀なるを知るべし若し今日にして我邦食料品を改良するなくんば如何でイスキモー的なるを脱するを得んや

我邦食料品の改良既に此の如く切要なり然らば之を如何にすべきか之が改良を計らんには先づ以て同胞各戶の經濟如何に着目するを要す近頃或る統計學者の調査せる成蹟によれば大人四人小兒三人の我邦中等社會一戶の生計費を各種目により區別する時は通例飮食費に用ゆべきものは全經費の三割乃至四割なりと今假りに一ヶ年五百圓を消費する一家ありとせんに其內食料に費すべきものは百五十圓乃至二百圓にして即ち一ヶ月一人の食料費は小供三人を二人として平分する時は凡そ二圓八錢至乃二圓七十八錢に過ぎざるを知るなり是れ實に中等社會の飮食費にして我等同胞の最大多數は倘ほ一層の減額を要するものとす故に我邦に於ける飮食費の改良は最も質素なると即ち最も平民的なるにあらざれば徒らに机上の空論たるに過ぎざるや明かなり

既に我邦飮食品の改良は專ら蛋白質補給の增加にあるを知り又之を增加せんには最も質素に即ち最も平民的に爲さゞるべからざるを知れり是れ果して希望し得べきの企てなるか彼の牛畜は年一年に其屠殺數を減ずるも然も倘ほ年々其現在數を減じつゝあるにあらずや牛肉の需用を奬勵せんと到底今日に望むべからず然らば彼の馬畜は如何是れ亦實に先天的の食用獸にあらず且つ其繁殖力は至つて薄弱にして牧養の收支相償はず今日既に年一年に其數を減じ軍馬駕馬駄馬の供給すら困難なるの狀況にあらずや馬肉の需用を盛にせんと是れ亦到底望み得べきとにあらざるなり然らは海產を盛んにし魚介の需用を增加すると如何是れ亦容易に望み得るとにあらず特に今日蛋白質供給に最も不足を感じつゝある處のものは海洋に遠く運搬交通に不便なる山村の住民にして此等僻遠の住民に於ては到底充分なる海產の餘澤を蒙むる能はざるなり故に是れ亦豫期外に置かざるべからさるものとす加之更に眼を他方に轉ずる時は又大に憂ふべきもののあるを看る則ち我等蛋白質需用者は實に年々五十万人宛を增加しつゝあるにあらずや而して之が天然供給を考ふるに山野の禽獸は年一年に減少し河川湖沼の魚介は又年一年に減少す既に人工的供給に望なく又實

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に天產物に望なし今日に於ける飲食品の改良亦困難なりと謂ふべし

茲に於てか予は切に姉妹諸君に謀りたきとあり今日に於ける飲食品の改良は其困難なると前述の如し然りと雖ども此困難も諸君の柔かき温手を借る時は決して望なきにあらざるを信ず實に諸君の柔かき温手は能く此困難を排除するを得るなり諸君よ諸君が良模範となりて各戸婦人の間業に或は二三十羽の鷄鴨を置き或は數頭の山羊又は羊或は家豚を飼ひ又山間の地に在りては或は鯉或は「スッポン」或は鰻等を飼養するに至らば如何此等數種の内に就きて其最も適するもの一二を撰み其飼牧の方法を講究せらるゝならば之を實行する敢て難事にあらずと信す而して此等諸種の面白き間業は多くは皆兒女の教育上にも頗る有益なるものと思はる若し此等間業の漸次全國に傳播するに於ては遂には我邦全般に善良なる蛋白質の供給を與へ大に食料品改良の實功を觀るに至るや必せり是れ實に予の眞面目に姉妹諸君に希望する處なりとす然れども予の特に切要を感じ今日第一に姉妹諸君に着手を願ひたきは古來上下の區別なく日常欠くべからずとする處の彼の味噌に付きての研究是なり

實に味噌は我邦一般に之を常用し其精良なるものに至りては食物に美味を與へ輕く食道腸胃の粘膜を刺衝して食慾を興進するのみならず其蛋白質を含有すると白味噌は六分弱にして赤味噌は一割の上に出で地方農家の如きは毎食之を用ゆるを常とす若之を欠くとある時は殆んど其勞に堪えずと云ふの有樣なり味噌の我邦農家に與ふる滋養豈に夫れ著大ならずや之を農家の牛乳と稱す亦宜なりと謂ふへし然れとも是れ其精良なるものに就きて云ふのみ若し其不良粗製なるものに至りては此有用なる蛋白質は變じて有毒なる乳酸に變じ滋養なる糊精及澱糖は「アルコール」醋酸及惡臭ある脂肪酪に化するが故に斯くも滋養多き善良食品も啻に無用物に化するのみならず却つて有毒物に變化して或は下痢症を發するの原となり或は胃弱を惹起するの因となる味噌の良否豈に國家の衞生上に至大の關係を有するものにあらずや味噌製法及貯藏法等の研究實に今日の急務と謂ふへし

既に考慮して茲に至れば我邦國民の矮小虛弱短命なると又長大強壯長命なるとは一に姉妹諸君の柔かき温手に荷はれつゝ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

あるものゝ如し若し今後益々矮小虚弱短命に陷ることもあらば其責や諸君の上に落ちざるを得ず若し又之に反して長大強壯長命に漸進することを得んか此大なる名譽は亦悉く姉妹諸君の上に歸すべきなり諸君の味噌研究に於ける責任豈に夫れ大ならずや

予や旅行の度々必らず各地の味噌に注意し又東都に於ける諸種の味噌を調査せしに其不良變化を來せしもの決して少小にあらざるを發見せり即ち其多くは著るしき酸性を呈して且つ不快の臭氣あるを常とす唯慣習の久しき之を意とせざるもののみ特に僻遠山間の村落に至りては其粗製濫造の弊たる最も甚だしく我等充分の習慣ある食味噌人種すら往々堪え難きの臭氣を感じ到底一口だも試むる能はざることあり或は不時の下痢症を起せしとすら少しと爲さず是れ豈に我邦の健康上に一大關係を有するものにあらずや

元來味噌は各地其製法を異にし各一長一短あるを免かれざるが故に若し廣く之が製法及貯藏の法を蒐集して之を學理に照らし實地に徵して以て比較研究するあらば幾分の改良策を案出し得んこと難かるまじと思はる尤も各地の狀況によりて麥多き處は麥の麹を用ひ米多き地は米の麹を用ゆるが如き或は又溫度の高低によりて食鹽の分量等にも多少の差異あるべきは勿論各家生計の程度によりても亦自ら其製法を異にする筈なるが故に全國劃一の製法及貯藏法を案定することは到底望むべきことにあらずと雖とも各其種類の異なるによりて分類し其類似せるものに付きて互に比較考究する時は各種其改良法を案出すること決して困難の事にあらざるを信ず姉妹諸君願くは諸君が各地に分散せらるゝに當り暑中休暇の一問題として左の諸項によりて出來べき丈の御調査を爲され之を御土産として御歸校あらんことを

一、各地に於ける味噌の種類。例へは赤味噌、中味噌、白味噌、麥味噌、金山寺味噌、小金味噌、櫻味噌、てつか味噌等の如く各種の名稱を記述せられたきこと

一、各種味噌の原料。例へは赤味噌には黃色大豆、大麥及食鹽を使用する等の如し而して其大豆は寧ろ小粒なるもの或は何地產を良とするか大麥は如何なるものを良とし食鹽は何處產又は如何なるものを良とすとか其各に付きての良品の撿定法を附記せられたきこと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一、麴の製法。如何なる原料を何時如何なる方法を以て製するや且つ之に關し注意すべきことども詳細に認め且つ米の麴なれば如何なる模樣のもの或は幾日目のものを最良とするとか又麥の麴なれば如何であるとか其麴の最適なるもの丶性質及檢定法等附記せられたきこと

一、各種味噌に付き原料の割合。大豆麴及食鹽の割合は最も注意すべきものとす蓋し味噌の主成分たる大豆は多量の植物性蛋白質を含み以て吾人に滋養を與ふるものなりと雖ども此もの單獨に長く麴に融接する時は泡釀過度となりて遂に有毒なる乳酸となり又第二の性分たる米若くは麥も多くの澱粉、少量の膠質及脂肪を有し此もの麴に化する時は澱粉は變じて糊精及澱糖となる然るに此もの亦更に泡釀する時は或は「アルコール」醱酵を起し或は醋酸其他の有毒なる醱酵を生ず而して此泡釀の節制は全く食鹽の分量に在り即ち此もの多きときは熟すること遲きも能く久しきに堪え此もの少きときは熟すること早きも亦腐敗すること早き等味噌の性質に於て以上三者の割合は最も大なる關係を有することなるが故なり故に此等割合に付ては最も正確に調査し成べく詳細に記述し併せて其利害得失をも附記せられたきこと

一、味噌製造及貯藏に用ゆる器具類。唯其名稱のみならず大小形狀等を明かにし且つ桶なれば杉の赤材の柾を最良とするとか或は酒屋の古桶を利用するを第一とすとか其器具の最良なる原料をも附記し又特に簡便なる用具と思はれしものは一層細說し場合によりては圖解をもせられたきこと

一、各種味噌の製造法。製造に着手する時期一定し居らは其時期を記し次に大豆を水に浸す方法注意及時間其水質に付き注意することあれば其注意、浸水の適度なる兆候、次に浸水せる大豆を蒸す方法注意及時間、若し薪材竈又は火加減等に注意することあれば其注意、適度に蒸せたる時の兆候、次に之を如何にして取出し如何なる處に如何にして置き且つ如何に爲すか即ち或は臼にて碎くならば如何にして如何なる程度まで搗くか、若し玉に握りて乾燥するならば如何にして如何なる大さに如何なる形に握り且つ如何なる方法を以て如何なる

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

處に置きて乾燥するか又他に湯若くは燒酎等を混ずるならば其溫度、強弱、分量、方法及其利害影響等若し又乾燥せるものゝ黴を生じたる時は如何にするか如何にして之を碎き如何にして之に麹、食鹽等を混和するか及其の注意混和後の所置及注意、即ち如何なる方法及注意によりて如何なる桶に盛り如何なる蓋を爲して如何なる場處に置くか等出來得る丈け詳細に記述せられたきこと

一、諸漬物の有無。若し味噌漬を爲すならば如何なる方法注意を以て如何なる種類を如何なる分量まで漬け得るか又斯る漬物を爲すの利害得失等詳かに附記せられたきこと

一、貯藏年月及其方法。各種味噌(若し漬物あれば之をも)の成熟時期及其後貯藏に堪へる年月及其貯藏の方法注意等、又其中蓋は「ホヽノキ」の乾葉、芭蕉の葉及竹皮の三者中何れを最も良とするか或は他に良きものあるか其利害得失の比較をも附記せられたきこと

一、各種味噌の性質。色、味、臭氣其他諸特性を記述し且つ其善惡の檢定法をも附記せられたきこと

一、各種味噌の利用法。此地の習慣は朝夕のみ味噌汁を造るとか又夏期は紫蘇の葉及黃瓜を半月形に打ちたるなど入れて冷汁即ち火を用ひさる汁を造るとか又汁にするには必らず擂盆にて擂碎し之を濾して後用ひざるべからずとか或は彼樣なる場合には落し味噌と稱して直ちに湯中に投ずるともありとか又然る時に風味に於て如何に差異あるとか其他魚肉等を漬る方法注意及一般の味噌にて料理する方法注意を詳述せられたきこと又若し食料外例へば火災の時土藏の目塗に用ゆるとか或は衣類に烟草の膠つきたるとき此上清液にて洗ふとか或は烟草の中毒を救ふ爲めに之を用ゆるとか此等種々の利用法をも併せて附記せられたきこと

一、各種味噌の製法利用法貯藏法等に就きての改良意見或は特別に注意すべき條件等

一、此他味噌に關したることは直接と間接とを問はず又細となく大となく出來べき丈け調査して記述せられたきこと

(注意)各種品等によりて區分し各其最も良巧老練の聞へある人々につき御調査せられたきこと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つれ〴〵草

余等の望み

無光

静なる夏の夕河邊をそゞろ行けば生ける風は天の使命を余に傳へて愛の泉は胸に湧き出でぬ草は岸に茂くして直く立ち蓮は池に笑みほころびて清く匂ふ緑せる樹木はかしこに集りこゝに放れて色深く又誠あり水の面は鏡よりも平かにしてうつれる影長く引き數無き星は幾億萬里の底にかゝりて余が身の中天に在るを疑ふ此時余は造化の子たるが如く感じき。

時に一つの聲耳に來りて語る春の花のものいふが如し謂ふ勿れ謂ふ勿れ此天地汝は之を小さくして己に肖す汝は己を以て天地を受取るかな（考ふるといはずして余は受取るといふ）など汝の狹く片輪なる心といふものの中に天地を入れんとするか愚のものよ汝此天地を面白しといふか是れ汝あり又天地有るにあらずや子は親を知り親は子を知る此時子と親と其間に別あらんや將又翻て天地もなく汝も無しとするか誰か汝をしてかやうの喇叭を吹かしむるものぞ何ぞ有りといふか又無しといふか。

斯く聽きつゝ間に光の全身に下れるを覺えき目に景色を見き而して知らざるなり內に余を認めき而して知らざるなり余は全く天地と余とを識別し能はずなりしなり是を生命に充てるとやいはん將た愛に化せられたりといはむ余は之を言ひ顯はすべき言葉を知らざるなり恰も七色の光線が相混和して輝ける無色の日光となれるが如く二ッの妙へなる琴の音が一にもあらず二にもあらずなりて生ける音樂を耳に傳ふるが如し玄の又玄妙の又妙なる哉。

釋迦牟尼佛明星を見て悟道して曰く我と大地有情と同時に成道すとこをいかに余等は受取るべきか。

クリストが高き山に登り給ひし時其姿かはり其面日の如く輝き其衣は白く光れりモーセとエリヤ現れてイエスと偕に語れりとこを如何に余等は受け取るべきか。

釋尊は五十年の間に五千餘巻の經文八萬四千の法門を說敎し給ひき終に法華と涅槃とを說て眞實の妙法を傳へ給ひぬ而して猶人の所謂經文なる者に執着せんを慮りて四悉檀なるもの

を說き給ひしと聽く曰く世界悉檀爲人悉檀對治悉檀第一義悉檀是れなり第一は世界の情況に隨應して法を施す第二は人に隨て第三は心の病に隨て第四は即ち窮極のもの前きの三をも統ぶる處のものなり即ち太陽が萬物に輝く如く眞如といひ法性といひ圓覺佛性極樂阿字涅槃金剛法師等假りに種々の名稱を附せる此第一義は世となく人となく處となく總てに其光明を惠む所のものなり如何に森羅萬象が莊嚴なりとも日光なからば世は暗黑ならん如く第一義を悟了徹底せずんば百萬の妙法も皆迷とならん實に言語に絕し文字を放れ思慮の外に在り一語を發して既に已を妙を失ふ故に釋尊拈華瞬目して迦葉破顏微笑す世尊即ち吾に正法眼藏涅槃妙心有り摩訶迦葉に付囑すと宣ふ「大地有情と共に成道す之を形に顯はして」拈華瞬目となるに非ずや。

クリスト野の百合花を指して宣はくソロモンの榮華の極の時だにも其裝この花の一ツに及ばざりきと之を聽くもの歡喜してア、貴きかなと讃美せん然れとも汝は受け取り得たりとするか汝は聖書の文字に依りて之を解せんとするか思考研究して之を識らんと欲するか未だし〳〵汝野の百合花なるものを見る間はそこに至らざるなり汝野の百合花と化身するの神通を得ざる間は之を受取るを得ざるなり非情と有情と一致合躰無有の境に入りて初めて汝はクリストの此言葉の中に在らむ人間の心を以て之を考へんとするを止めよポウロが假令われ諸ろの人の言及天の使の言を語るとも若し愛なくば鳴銅や響く鐃の如し假令われ預言するの能あり又すべての奧義と諸の學術に達し又山を移すほどなる諸の信仰ありとも若し愛なくば數ふるに足らぬものなり……愛は永久に墮ることなし然ど預言は廢り方言は止み知識も亦廢らんといひて其愛といふことは所謂愛するといふ意なるか是れ愛といふものを人間に下せるものなり凡ての智識も學術も其前には消え失する此愛は汝何と受取るや野の百合花と化するを得ば此愛をも受取るを得ん心の淸きものは幸なり其人は神を見ることを得べければなりとはいかなる意ぞ所謂心の淸きなりと思ふは是れ淸といふことを人間に下したるなり此般のもの天地和合し神人融化する所以平和は即ち此境に在るなりクリストの姿のかはり其﨟の日の如く輝きし所以のもの此般の妙ならざらんや大地有情と同時に成道する所以のもの亦實に此般の妙ならざらんや

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

神といひ人といひ罪といひ救といふも此大調和大生命の中に和せられざらん限は眞正の平安は余は信ず決して得られざるを大乘といひ小乘といひ佛といひ衆生といふも此大調和大生命の中に和せられざらん限は眞正の平安は余は信ず決して得られざるを。

是如は世を放れ身を厭ふなり如是は空想の幻影なりとすること勿れ是を收むれば一の花瓣に歸し是を放てば十方億万の世界に亘る一文を喜捨せる賤婦はクリストの友たるを得たるに非ずや此心宇宙に亘り萬象に融して大日如來と見じエホバと現ず此賤婦の友たるを得るものは余が所謂大生命大調和の中に在るを得んアヽ止みなん止みなん此般の妙余等凡夫是を筆にし口にするとき既に已に其本を誤る唯喝一喝せん。

夏の朝

近刊の女學雜誌紙上「夏を歡ぶの辭」を讀みて同感の念深く拙陋なる短文を綴りて梧下に呈す

〇〇生

晴空澄みて輕風微に樹梢に動き、白露未だ其姿を沒せず、乃ち出でゝ屋外に閑步すれば、爽氣予を伴て趣味津々たる靈界に逍遙せしむ、あゝ夏の朝、予は此清爽を樂しむと深し。此清境に處して冥想すれば恍然自然と仝化す、予は既に予にあらず、惟り存するものは自然のみ、縹緲たる神韻のみ、普遍なる精氣のみ、エマルソン嘗て翁々たる林中に逍遙しつゝ、其一友を顧みて曰く

君今此處に普遍なる精靈の姿を認めずや、軟風は徐に吹き來りて余を迎へ、余亦帽を脫して之に應ず、而て靡ける梢、潺湲たる細流、花、小鳥、、、、、活る物も死せる物も、渾然融化し普遍の精靈となりて余を迎ふるなり。

平和と自由と美とは只此妙界に於てのみ悟得せらるゝなり、予郭公となりて雲井に叫び、涼風となりて綠葉を弄び、露となりて月影を宿し、細流となりて淸し、あゝ是自然にあらずや、平和と自由とにあらずや、加賀千代尼這般の消息を詠じて曰く

紅させる口も忘るゝ清水かな

古家漸平新家高

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

園照女史が謂ふ英國の某婦人

ミス、マクリーン小傳

長坂毅

英國ロンドン府に支那語及び日本語に通ずる一婦人ありミスマクリーン Miss M. Mc Lean と稱す。孃は一千八百三十八年北英國に生れ年十七にして主イエスキリストを信じその後二年を經てロンドンに出で英國陸軍大佐モルトン氏の設立に係るマイメ女子神學校に入り勤學數年業成て後ロンドン市中傳道に從事し頗るその功を奏せしが主の召に由り一千八百六十六年支那内地傳道に赴き傳道すること五年にして適ま病に罹り歸國保養せり。

一千八百七十二年再び主の召を蒙り遠く我邦に來れりこの時ロンドンに在る孃の友は左の聖句を以て贐とせり。

爾曹その憂慮ところをみな神に托ぬべしそはかれ爾曹を顧み給へばなり。（ペテロ前書五章七節）

爾來孃は神戸大坂邊に傳道し或時は藤田傳三郎氏に雇はれ子女教育を委托せられたり。

一千八百八十一年英國に歸り當時ロンドンに開かれし日本人村落に在る下等日本人凡一百人を助けその窮を救へり。尚帝國軍艦千代田及び吉野等回航の節士官以下水兵を英國貴族社會に紹介し或は親しく帝國軍艦を訪ふて福音を說き時としては艦内にて水兵と机を共にし日本食を味へり。その他本邦政事家又は宗教家等のロンドンに游ぶ者を一々訪問して或は宗教上或は政事上等取調の便益を與られしことも尠からざりし。

一千八百八十九年"Echoes from Japan."（三百十六頁）を著はし大に學者社會の高評を博せられたり本書の卷首には植村牧師の序あり。この書僅かに數月を出てずして販了を告げ久しく品切なりしが本年再び上梓發兌せられたり。この外"Open Doors in Japan"てふ著述もあり。兎に角異國の益友と云はざるを得ざるなり。

孃は現今 Conference Hall, Eccleston Street, Pimlico, London, S. W. に住しロンドン在留本邦人(目下凡四十人)のため全力を盡し日本語を以て傳道に餘念なし。然るに昨年園照女

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

米國よりロンドンに來り自からマダムラルソノと稱し且つわらべは日本最高等に位する公家なりと名乘りマクリーン孃を訪はれそれより二三ヶ月間右マダムは孃の助けを受け所々巡遊中スコッチレンデーの習慣として會計用度に嚴格なるにマダムは不愉快を感じ遂に恩ある孃に大なる意外の寃を與へ交を絶てり。このこと早くもロンドン宗教社會の聽く所となりマダムラルソノとミスマクリーンを取調べその寃を清めミスマクリンの名譽を保護せられたり。

予が昨年十一月ロンドンを去りウエイマス（この間百四十六哩）より帝國軍艦吉野に乘込む際孃は予を同所迄送り來りポートランド停車塲客待所にて共に跪き留別の祈禱を捧げ終りし時孃が多年所持せられし上等仕立聖書一卷を永く紀念のためにとて予に惠れたり。開て卷首を閲するに孃の履歴ありたり。今その聖書より書拔き聊か良友の小傳を作り貴社に投ず請諒焉。

ヘルバルトの母（下）

鷗村

彼は十三歳の齡を以て、其鄕里の中學に入りしが、爰に在りて、物理と哲學とを、好んで勉學したり。此校に在るや、課業の休暇を得れば、他の兒童等の、遊戯散歩に餘念なき時、ヘルバルトは、二人の親友と、共に、散策しながら幾多の問題に關する議論に熱中し、遂に、議論は歸すべき處を失ひ、道は林間に歩み迷ふとさへ、屢々なりき。かゝる時に於て、ヘルバルトの母は、必ず食料を送りて、道を失ひて、なほ議論をやめざる三人の少年に與へたり。ヘルバルト、十八歳にして、此中學を卒業せしが、此時彼は其卒業演説にて、道德哲學上より、無上善に於ける、シセロとカントの概念を比較して、大に人の注意を惹きけり。卒業後彼は其父の意により、法理研究の爲、エナの大學に送られしが、當時、此大學は、獨乙哲學思想の中點となり、彼が入學の年、即ち一千七百九十七年に於て、正にフヒテは、カール、ラインホルドの後を受けて、哲學敎授の講坐に登りたり。哲學的の天能と敎育とを受けたる、ヘルバルトは、此時に於て、豈に安んじて法理を學ぶに忍ばんや。彼は法理に心を用ゐると、少くして、哲學に熱心したり。彼初めはフヒテの説に服せざりしに非ざ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りしも、其制限なき研究の念と、精細鋭敏なる論理とは、師の唯心論に不滿足を訴へ來りたり。其二十歲に於て、彼は又シェリングの說を、論駁して、唯心說を排し、爰に自己の哲學を組織するに鋭意し、之に於ける問題を考究するが爲、他の勉學を廢し、大學の講義を聽講すること稀にして、數週間に涉ることありしといふ。

此際、ヘルバルトの母は、平凡なる其夫を棄て、、エナに來り、母子居を共にしたり。(彼女は後に其夫の離緣する處となりぬ)。其才能智力は、其子と共に學者の群に、出入するに堪へ、殊に交りを、フヒテ、ニータムメル、史家ヴオルトマン等に結び、詩宗シルレルに厚くして、彼と其子との間に、情誼を締結せしめき、加之ならず、兼てヘルバルトの胸裡に蟠まりて、未だ顯れざりし敎育思想は、大に母氏の力によりて、開展することとなれり、彼は母の勸告に從ひ、千七百九十七年の初め、大學を去りて、瑞西國インテアラーケンの知事、スタイゲアの兒童の自宅敎師となりぬ。此任に在る三年の間は、實に彼が敎育說を養成したるの時にして、彼が一生に於て、甚だ重要なる時代なりき。

ヘルバルト母子の關係は、述べ來りたるが如く、實に密切なりしが、後年に至りて、ヘルバルトの、自宅敎師の任を辭してより、再び哲學の研究に歸るや、其收入の生活を支ゆるに乏しきを思ひて、母は爰に彼に關涉依賴することをやめて、雲霧や、母子の間を隔つるに至れり。然れどもヘルバルト自身の母に對するの情は、敢て異變せざりき。然れども此時を以て、ヘルバルトが事業に於ける、母の感化、關係は既にやみたるが故に、予が此記事も爰に其局を結ふべきこととなりぬ。

文しらべ

家康老後のをしえ（中）

一　學問は大名自らはくかくに成候に及ばぬ事に候學才有之者に常々其道の講釋承り其外も物の義理善惡の事尋古き善の行義作法名將忠臣の噂主の心をくらまし其國を亂し代々の國郡を失ひ候事共常々承り置我身の心ゆるまぬ樣心掛候事第一に候兎角人の道は五常を守るに止りて其外

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

我身の鏡無ては何事も知ぬものにて常の鏡と違ひ外よりとぐ事はなく我心を心にてとぎ立て申候事我身の行ひの悪しきは鏡のてらさぬ故にて候まゝ其曇らぬやうに致候事は常々身の行ひの善悪を人に尋るより外は是なく身の行ひの悪きを聞く事を悦び其座に其悪を改め悪をつげし者へ褒美を遣し召遣ひ候得は次第に鏡は照り出し身の善悪は其席にてしれ家中の善悪民百姓の取沙汰居ながら知れる事に候身の善を聞事を好み候得は佞臣も氣に叶ひ候事計りを申様に成行身の悪きを聞事を悦び候得ば忠臣は日々に近く忠言を時々聞事は一身の行ひにて天地の違ひ成事に候此所主たる者第一の事に候召仕ふ者利口にてきてん者計りを召仕ふと其所が佞人の取入所にて候何事もにぶく候とも正直成者を撰み召仕ふ事專一の事に候

一 井伊兵部事平日言葉すくなく何事も人にいはせて承り居氣重く見へ申候得共何事そ了簡變じ候得ば直に申者にて取譯我等の何ぞ爲にならぬ事皆人の居らぬ所にて物語も和らかに善悪申者にて候夫故何事も先内談致し外々へ申出候様に成申候

一 身の嗜みの事人にすききらひ得手不得手有之事にて候兎角物のかたよらぬやうに爲致候事たとへば四季の艸木の花色々様々に咲候て何も賑有之候内どくだみと申草花香も悪き物にて何の用にも立不申草の様なれども混の藥には煎じ用ひ候得ば藥にて候其如く何の藝も人の覺候事は承り置何ぞの時に用に立物にて候第一自身に不得手の事は人の致もいみきらひ候者まゝ有之事に候夫は大名の別て致さぬ事に候我等中年の頃迄碁を一向に不存人の打さへ不用の者氣つまりにて用もかき悪き物と計りぞんじ人の好候はうつけ者の様にぞんじ候所近年碁を覺へ候得ば雨降の徒然に慰にもなり先達てうつけ者と存候者を相手に致候是にて察候何事もせんのなき事は古へより致置ぬとに候呉々も自ら氣に入し者を計り善と存ぬ様に致こそ專一の事と存候只身の智恵の届事を朝夕に存る事に候

一 幼年の者得手氣に入ぬ事を申聞る時に側にあり合ふ箸など投ほふり物を損候事虫氣故と計り心得捨置候事甚だ子の毒を増と申ものに候虫氣に候はゝ灸治藥を用つのらぬ様に可致候成人の後も何ぞ氣に入ぬ事有之候得ばものを損なひ氣が散し候と覺し者まゝ有之候是全く我儘のつのり候故の事に候器物は損候ても其通の事に候得共後は召

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

候者氣に入らぬ事有之手打に致し氣がさへ〳〵と致たるやうに覺へ申やうに成行事に候病氣根入ふかくならぬ先早々直す事に候

小説

橋松佳話（完結）

松のさかえ（下）

花園女史

又桑港に五年間留學せしといふ二十七八の色白きにやけ男、細ヅボンに黒綾織のコートきて、女學校建設せんに、校長を操子に依托したしとて幾度も訪來しを、宗平も磯貝も其人物のおもしろからぬをもて、操子に逢せぬをもどかしがり後には郵書にていひこしぬるは、泰西の風俗は男女交際を重んずるに、我邦に歸り見るに、我同胞の婦女子は籠中の鳥のごとく、網裏の魚のごとく、はかなきありさまなるを、憐むなどと、操子を氣の毒なりといはぬばかりにあてつけて、いまだ無妻の貧乏生、何とぞ御引接にあづかりて、神聖なるに婦人の德の感化を蒙りたく、かつ女學校のことにつきては、御意見をも伺ひたく、是非とも校長の任を御引受ありて、我邦婦女敎育の典型を示されたくなど、洋語漢語打まじりたるに、和文めかしたるかきぶり、其人柄もおしはかられて、操子手にふるゝもきみあしとて、宗平して謝絶の返書を送らしめぬ。またキリスト信徒より、布敎の資、献堂の費など、義捐申込ありしも、操子もとより宗敎の社界に必要あるを認て、偏信する所あらざれば、これまたこれを拒むことをせず、わきて日清貿易を盛大にせんとて一社を建設しこれに十萬圓を入、橋本の遺財に併せて合資會社としその業を經續せしめ榮二郎を社長に取立て松田家の舊家人、又はその子弟などの中、溝口義高、岩山昇、竹田靜、など聞ゆるを相談役とし、年廿をこゑし計なる内藤金一郎堤大助を書記役として、事務に當らしめ、橋本のとりし方針によりて、小笠原島には最早さしたる遺利もあらざれど、返て手近なる豆海の七島には、興すべき業少なからねば、榮二郎絶えずゆき通ひて、橋本の父と計り、事業ます〳〵歩を進めぬ。相談役の内藤は、松田家には舊き家來筋なれど、田舍に里子となり、その地に育ちて、農

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

業の事には委敷、本の家に歸り來ても猶、その男親とも音信するほとなれば、此度操子の計畫、聞傳へて其村の農北尾彌衞門、農業進歩の爲、多年の經驗を學理に徴じて、其所見を述たる書五六冊、あつ綴にしたるを、操子に送りぬ。操子堯行と共に讀見たるに稻の作不作、畑物の培養方などいと詳にときあかして、中には我邦の地に、燐酸の乏しき爲、肥料に事かくをいたく憂ひ、冬季農事の暇ある頃、魚腸魚骨を碎末にして、其料とせんとの趣意を主として、著したるものなり。堯行もかねておもへる所に適ひたれば、いたくこれを贊成し、王子地方にある持地をその試驗場として、北尾に托してその事に從はしめんとす、その爲に操子も二万圓を投じ且つ水產業にも一万圓を投じて、相待て肥料製造に取かゝらしめぬ。今村久は鄕里の田畑をは久野にゆづり、父をば東京に迎へ取深川に地所を求めて十万圓の資本、操子より受て、こゝに工場を開きぬ。從來蒸氣の機關は、其運轉の爲、要する所の石炭はじめ諸の費用少なからずして、其實力は割合に多からず、總て瓦斯電氣を利用する方、簡便なるべしと、部下家々に引用ゆる瓦斯電氣の餘流を引き、工場に流注せしめ、其力をもて機器の運轉を計らんと先各其會社に特約を結びてこれが試驗をはじめ又蒸氣にても、其鑵外にある周圍の熱氣をそのままに飛散せしめんことをしとて、これをも導きて其力を出さしむることにも試み、果してしからば、二重の効用をなすものなれば、また瓦斯電氣にもまさらずとはいひがたし、何れなりとも其費を節して、其收益の多からん工夫こそ肝要なれと、こゝに心をくだきぬ。それのみならず、工業の盛なるにつれて、貧富の懸隔を感じやすく、從て工夫と業主との間に面白からぬ感情を生じ、或は同盟罷工となり、末は財產平等社會黨のごときものゝ起こらんは、しかるべからず、これ畢竟その貧富の相懸るよりは、勞佚の均しからぬに、基るなりと己れ先に立て油雜巾を手にとり、眞黑になつて器械場にはたらけば、妻また自工女にまじりて、紡績織紝に骨をおしまず、工夫工女これにはげみて事業益盛大に赴かんとす。今村は國內の事業に力を盡せば、堯行は操子の後見に海外に爲すところあらんとす、操子も同じ心に殘る二十万の金は、その爲に費さんの心なれども、何ほどもなき資本にて、見事一の成蹟を收めんことは、即今衆人の屬目する亞細亞近隣の國、

並に南洋との貿易植民の業に率先して、其實地の探撿に從事し、天下有志者の爲に、先導者の勞をとらば、後來我國民の利なるべしこれぞ明に財を不生殖の途に擲ちて、暗に寞大の益ならめと、評議こゝに一決し、堯行は我舊來の學友、又曾て橋本と同窻なりしものゝ中、志篤く、氣雄に、學問の應用に富むものをときすゝめ、またかなたより望むものは無論、これをいれて、山西嘉吉、匹田元明、安藤太作、沼間捨次郎なんど天晴の人物を得ぬ。又堯行が漢籍の師の息にて中村國忠といふをはじめ、松田家の恩顧のものも友に友を引て、十五名に及びき。いづれも品學志業人にすぐれたるものと堯行操子もうちよろこび、その人々の所望に應じ、二人三人組合せて各地に派遣せんと定めにき

第一郡　資金一万四千北海道より薩哈連島に渡り、尼古來斯克に到り、黑龍江を溯り、冷已羅夫喀に進み、烏蘇利江に入り、浦潮斯德に宿し、沿海揮春より南折して、朝鮮慶興道に入り、東海岸を廻り、南東萊釜山に到り、又西海岸を北行して、鴨綠江を渡り、奉天吉林寧古塔東三省の地を歷て、乃耳推斯克に到り、商隊に加はり、南行して北京に宿り、陸路上海に出、歸朝、

此路にあたる人物は、箕田洪六曾て大學に卒業して其敎授たりし植物學士、年卅一、匹田元明、文學士、特に史學を究むるもの、年廿八、山本彌之助、札幌農學校の敎授なりしもの、年卅四、已上三人、

第二郡　資金一万八千上海より江蘇安徽河南山西陝西甘肅の諸省を歷て、蒙古地方に出で、吟古圖に到り、庫倫より北京に向て進み、天津より歸朝、

此任にあたる人物は、長谷川進、原は大學選科の修業にて、史學社會學を修め、今新聞記者なるもの、年廿九、沼間捨次郎、慶應義塾に學び、今日本運輸會社の支配人たるもの、年三十二、中村國忠、儒家の子にして漢學を修めたるもの、年廿七、已上三人

第三郡　資金三万四千上海より楊子江を溯り、漢口に進み、兩湖貴州四川の諸省を經て、西藏に入り、札什倫布より印度のカトマンドーに出て、中部南部を過ぎ、コロムボより歸朝、

此任に當る者、廣橋渡、大學の出身にして、地質動植の學

を脩め、自から實驗場をも有し敎育に從事しゐたるを抛ちて、好んで此行に加はりたるもの、年卅六、山西嘉吉、大學の出身、政治學哲學を脩めたるもの、年卅二、新井清則は詩人にして、年卅八、已上三人、

第四帮　資金一万四千上海より浙江江西福建兩廣雲南諸省を歷て、安南暹羅緬甸を經、印度カルカツタより歸朝、

此任に當るもの、飯山武夫、同志社の史學敎授たりしもの、年三十二、岩村一郎、米國に留學し、今三井物產會社々員なるもの、年二十七、已上貳人、

第五帮　資金二万千琉球臺灣非立賓を過ぎ、香港に寄り、濠州シドニーに到り、新ジーランド、フヰジー、新カレトニア等を廻り、新幾內豆、瓜哇、西里百、婆羅、蘇門特羅を遍歷して、新嘉埠より歸朝、

此任にあたるものは、安藤太作、大學の出身にして、人類學動物學を究め、年三十三、太平虎之助、商船學校より出で、現に二等運轉士の職にあるもの、年廿九、瀧朔三有志の商人、特に水產商業に經驗あるもの、年三十八、已上三人とぞ聞えぬ。

萬松鬱として茂りたる芝山紅葉館の坂下より、數十輛の車つらねて館內に入來るは、明後吉日を卜し、同時に東京を出立せん東邦探撿の銘々、堯行はじめ今村兄弟、廣瀨其他朝野名士、席定りて後、堯行立上り、此まで日淸間の貿易には屢々手を下せし事もありしが、おもひしごとく成果得がたかりき。畢竟その土地の風俗、運輸の難易等、深く撿究する所なく、匆卒に事に從ひしに、職由するものなり、知るを先にし、行ふを後にするは、たゞに學問の順序のみかは、されば此度、その探撿の爲に資を擲ち、充分の査覈を經て、其報告をまつて、施す所あらんとす、而して其報告はたゞ我貿易會社にのみ私しせず、我邦の海外貿易、殊に東邦の商業に志を抱ける人々の爲にせんとす、即兵法知彼の道にして、商戰の必勝を期するの策なりとて、其分派する國の人々の姓名、及到處の地名を讀上ぬ。探撿者總代中村國忠この答辭として各心力を盡し其任に負かざらんと誓ふ趣を簡短に述べしに、滿堂の拍手と頌聲につれて、はや吸物すふ音もきこえぬ。

元明治學院の出身にて、一時英國に留學し、天津に領事を務め、また英國にも領事書記官などになりて、臨時代理公使の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

主任まで、務たりしがその後職を辭して歸り、東京にありて耶蘇教の牧師となり、今又土木會社にいりて實業社會に身を委ねたる二階堂團藏といふものあり、もと松田家にも縁あるものなるが、今日の擧おくればせにきゝ付、此座に連りゐしも立上りて、自己の意見を述たしといふに滿座の賛成を得て、談出したるは、分派の探撿、固より不可なし、其地方、その人物、決して間然する所あらず、然れども各自の報告を集めたるも、東を說くものは、西を詳かにせず、甲に歴しものは、乙に渉らず、實地に手を下さんとするには、前後緩急のかけ引なかるべからず、しかるを銘々各自の說のみにして、これを比較するに、觀察に事かゝば、いかにせん、是畢竟此東京に坐して、實地踏査なさゞるものゝ成し得べき業ならんや、されば此度五方分派の全部とまでならずも、せめては朝鮮滿洲より支那全國にわたり、印度の半島國、安南暹羅邊より、比律賓群島、手近の塲所だけなりとも、巡撿して、大要を綜覽する人物なかるべからず、そはこの團藏が、自から奮て單身其事に任したし、資金はたゞ一人の事なれば、一万圓

にて事足るべし、一度は此毛遂を囊中に入れて、末の穎脫を試み玉へと、口角に泡を吹きて、熱心に演說す。人柄顏赤く肉つきて口許より双頬にかけて生たる濃ひげ眼光人を射て、鼻遍く、口大きく腹便々たる、半老紳士、その演說畢つて、獨り床の間に坐しおる、操子の前にすゝみ、一盃の酒を献じて猶何事をかたらひぬ。

かくて此席も、はやあなたこなたつゞしり歌の聲などもるゝ頃、おもての方俄にさわがしく、引よする車の音のけたゝましきに、こは高にものいふ人の聲々、操子何となく胸さはがれて、席をすべり出、何事にやとさしのぞく階子口、上りくる人と顏を合すれば、ヤ、夢かとたどる後より堯行、橋本君とやにはに其人の手を引張りて引づり上るやうにするに並居る人々皆立さはぎて、もまれ／＼、かれ一句、これ一句、それとも分かぬ言葉のはし／＼、破船の折、手にあたる浮ぶくろに身をゆだね流れ／＼し末はまた人しらぬ島へつきて一日をふるうち、時任の流れよりしを助けて、共にその島に月日を送りし中漸く沖を過行船をよび留たすけられて、この度の歸京、

はからざりし離を幸にてゆくりなく地味ゆたかなる島を發見しつる事々、今こゝには盡ぬ物語りなり、兎に角にと橋本坐をすゝめられて、立つどひし人々も漸しづまり坐にもどり、盃など更にすゝむるに、操子其側へ尭行に手をひきておしすゑられ、御無事でと見めぐる顔昔ににず、くろう衣服もきたなげなるに、今迄の辛苦おしはかられ顔を背くれば、橋本なつかしげにかたへに坐をあたへ、あらためて今こそ禮をいはめ、今日迄皆我志を心としての操、我つまならで、神とこそ思へ、新橋につきて時任にわかれ、駿河臺の家に行きしに、宗平留守して云々と殘りなく聞しりぬ、いたうやつれしはさこそ心づかひの多かりしならめど、なぐさめられて、操子はづかしく、うれしく、はたかなしく、今迄の雄々しき心不殘消て、もとの乙女心に、何とこたへん言葉もなき有さ始終を見聞する一坐の人々、たゞ／＼うれしといふうれしさのうづまきにまきこめられて、のまぬ酒に醉し下戸も多く、まこと醉へるは舞もうたふもたゞ／＼夢の心地に手をうちたゝきて、橋本君萬歳、橋本貿易會社萬歳、とわめき立埠樓もくつがへるべし完

書架

○亞米利加の未婚婦人

レスター、ワード氏は、近號のモニスト雜誌に於て、統計局の許可を經て、下の如き統計を公けにしたり。調査は明治二十三年分のものに係る、

亞米利加合衆國の婦女子の數三千〇五十五万四千三百七十八、其の五割六分二厘四毛、即ち一千七百十八万三千九百八十八人は獨りぐらしの女子なりとす◎此獨りぐらしとは、未婚女、寡婦、離縁されしもの、三種なるが、最后の種類は極めて少し◎年齢によりて別てば

二十才以上二十五才迄の婦人の獨ぐらし	五割三分
廿五才以上三十才迄の婦人同前	二割八分
三十才以上四十五才迄の婦人同	二割
四十五才以上五十五才迄同じく	二割六分

○沙翁の禽獸觀

クヲータリー、レビウ雜誌の近號に、某と云へる記者は、シエクスピアが鳥と獸と題せる面白き一文を載せたり。數多の例證と愼しみたる斷定とをもて記述すらく、此の大詩人は、かく迄に人情をつくしながら、禽獸に對しては、趣好ことの外あさかりけん、其が筆の情けに入りしものは、通常、遊獵などにて注目さるるもののみなり、海の美くしきを記るすときも、之に飛べる白鷗には目を着けず、かゞやける日光を見るときも忙がはしく飛ぶ蜂は注意の外にありき。此の意味にて自然界を愛するの一事に於ては、彼はジヨンソンにもチヨウサーにも劣りたり。但だ彼が情けのあつかりしは、馬なり、意外にも冷やかなりしは犬なり。

○英國最富女子

ストランド雜誌の近號に、伯爵バーデツト、コウツ夫人の行績を記す。彼女は、二十三才の時、英國にて最とも富みたる婦人となりぬ。小說家ヂツケンスと共に貧民の巢窟に探撿し、公園を設け、千八百六十七年の疫病流行の折は八人の看護婦、二人の衞生視察人、四人の消毒掛を置て東町(貧民窟)の醫師の下に働らかしめ、ウエストミンスターにセント、ステフン教會堂を建てんとて五十万弗を寄附し、ホワイトランド師範學校を起し、各二十五万弗の入費にて英領コロムビアのアデライド及びケープタウンの二ケ所に監督館を建て、英國小兒保護協會の主動者となり、ロンドンの廉價食品供給會の會頭たり此會は一錢乃至二錢の錢にて貧民に滋養ある食品を賣るを旨とし毎年三十万品を供給するもの也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時報

◎學校、教育

●學齡女兒の就學員數の僅少なる原因　秋田縣知事は去る頃同縣教育會に向つて學事上の諮詢ありうち女兒の就學員數の僅少なる原因に就きて左の如く議決したりといふ

（一）就學督責規則を厲行せざると

（二）現今の教則は男兒の爲めに設けたるが如く女兒に必須なる學科を輕視せると從て其教則は女兒に不適當なると

（三）前項の結果として學校卒業後も家事經營上教育を受けざるものと徑庭なきと

（四）市町村に於て就學督責をなすに女子を督責するは男子を督責するが如く嚴ならず

（五）學科の男女別ならざるによる

（六）女子に必須なる裁縫科輕きに失す

（七）女子の爲めに教則を設けざるによる

（八）女子特種の薫育を度外視したるによる

（九）女教員少く偶これあるも轉任早きによる

（十）男女教室を區別せず又女兒も男子と同じく椅子に倚らしめ並座せしめざること

（十一）授業時間現今の女兒に適せず

（十二）女子には生活上教育なきも差當り差支なしとの誤解をなせること

（十三）舊來の弊習により父兄が女子教育を無用視す

（十四）近隣の惡習慣（誰々の子弟は就學せしめぬ故自己の子弟も出さずといふと）

（十五）子守留守番食事調理の補助等家事の補助をなさしむると

（十六）母親が深く舊慣に泥み居るの結果即ち母の教育の行屆かざると

（十七）見苦しき衣服を纒ふて出校するを耻ると

（十八）農家は大抵かて飯（米に他の穀類蔬菜類を雜へ炊くもの）を食するも行厨にはこれを携へしめ難しと云ふと

（十九）富の程度低きによる

（二十）他府縣と交通不便なる爲に刺激を受くると少なく依然舊藩時代の風を墨守し居るによる

（二十一）早婚の弊あると

●宮城女學舍　仙臺市東三番丁同舍は昨年春松居鶴子女史の設立せし者にて大槪尋常中學校長其他重立ちたる諸氏の賛襄を得て日に隆運に向ひつゝある由なるが今其教授の方法の一般を聞くに從來の女子教育法とは大に其趣を異にし全く日本固有の婦德を養ふを務め裁縫を初めとし讀書算術禮法茶の湯等に至る迄一切婦德養成の學科のみにして亦質素を旨とするを勉む是に於て同舍の生徒は何れも操行方正にして實に他女學生の龜鑑とも云ふべき程なりと

●裁縫科と反對　岐阜市伊津美尋常小學校に於ては裁縫科を置くの計畫にて廿七年度今泉、稻束兩區費の追加として徵集するの方針にて近日全區會を開くの催しありしが之れを聞き今泉協同倶樂部に於ては大に運動する處あらんとする由其所以は只ださへ徵税の多きに苦しむ折から此上區費徵税の負擔を受くる事堪へ難きのみならず裁縫の如きは尋常科に設くとも其効なしとの事にて反對運動するに至りたりと云ふ

●日本の女教員數　田中太郎氏が廿五年末の調査に係るものを統計集誌に載す。其總計左の如し

幼稚園保姆		官公立	二六六	三五七
		私立	九一	
小學校教員	尋常	官公立	二二三六	三四〇一
		私立	一五四	
	高等	官公立	九六八	
		私立	四三	
高等女學校教員		官公立	六三	一九七
		私立	一三四	
師範學校教員	尋常	（公立）	五九	六二
	高等	（官立）	三	
專門學校及各種學校教員		官立公	五〇	六二二
		私立	五七二	
總計		官公立	三六四五	四六三九
		私立	九九四	

◎片々

●横濱婦人矯風會　は先月十八日不老町福音會に於て總會を開き同會の規則を定制せり其二三を左に記す

第壹條　本會を横濱婦人矯風會と稱す（名稱）

第貳條　本部を横濱市に置く（位地）

第三條　本會は互の修德を旨とし禁酒廢烟及び社會一般の弊風を矯正洗滌し併せて一家の平和より社會全般の幸福を増進するを以て目的とす（目的）

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

第四條　連絡　本會は全國各婦人矯風會及び萬國婦人禁酒會と連絡を通し一致協同の運動をなす者とす

●褒賞　三重縣にては去月二十五日左の如く褒賞あり

桑名郡桑名町大字矢田礒士族
宮永鎌太妻　せん

幼にして父を喪ひしが資性溫順にして善く其母に事へしも不幸にして年十三又母を喪ひて遂に依據を失して外戚の養ふ所と爲り以來外祖父母叔母に事へて孝養至らざるなし而して其外祖母叔母は共に長病に臥せしにせんは單身之に侍養し晝夜湯藥衣服飮食より起臥の看護に至るまで懇切到らざるなく或は時に病者を伴ひて街衢に出て病鬱を散せしむる等十六年一日の如く而して二母逝きし後は能く外祖父に事へて定省承歡到らざるなし其志行洵に寄特とす仍て其賞として金五圓下賜す

●月次御歌題詠進の和歌　本月九日宮中御歌所に於て月次の御歌題に對し詠進の和歌は左の如し

楠正行母

枯殘る楠の若葉のかをれるもこのはゝき木のあれはなりけり　元德

はゝそはのおほはさりせは橘のわかきは秋の霜にたへめや　正風

母さしのをしへあらすは楠の二葉は世にもかをらさらまし　忠敬

かくはしき菊の下水世の中にかをるもはゝのなさけなりけり　有仲

橘の若木の世々にかをれるもはゝそのかけによりてなりけり　愛子

楠の若木おほひしはゝそ葉や子を思ふ道のしをりなるらむ　敦子

たらちねの母かいさめも櫻井の里のおしへにおくれさりけり　道子

故鄕のはゝその陰のなかりせは楠の若木はかれやしなまし　眞賴

はゝそはのかけにおひたつ橘の若木の花も世にかをりつゝ　重諸

そのはらの小松やかれむはゝき木のこさはの露のかゝらさりせは　正臣

立花のちらむ子のみを郭公なきてさゝめしれこそかたけれ　榮

はゝそはのふかきかけにしよらされは楠の二葉もかをらさらまし　有經

櫻井のかたみのさくらちる時にちれといさめておほしたてけん　勤

なてしこは君かゝさしとなりにけりこのはゝき木の庭のをしへに　鍋二

かれぬへき菊の下水せきとめてかくはしき名や世に流しけむ　胤明

みよしのゝ春を惜みて散殘る木末の花をまもりける哉　安昌

●巾幗の從軍願　今回の日清事件に就きて巾幗者流の從軍を願ふものある由屢々新聞紙上に見ゆる事なるが宮崎兒湯郡三納村大坪まづ（十九）といへるもの去る頃村役場に願ひ出でしに村長は男子にても容易に許すべからざるものなれば況して婦人の從軍は適ひ難し其心もて老母等へ一層の孝行せらるべしと說き聞かしたりとぞ

●女子慈善館　婦人矯風會にて女子慈善館設立計畫の事は兼れて本紙上に報道したりしが、去月初大久保百人町の地所千七百餘坪を愈購求することに決し、それ〳〵の手續をなして愈地主三名を撰出しその地主より更らに同會に向つて證書を出し其地の矯風會所有の地なる假證書を認むることに決し、地主として當撰せられしは本多貞子、原田さき子、根本さく子の三氏なりと又去月四日、右地主三名は委托狀を得て該地所の登記も終り從來の基本金三百圓と外に借り受けし金四百圓を合せて都合七百圓を先つ拂ひ込みて該地所はいよ〳〵矯風會の所有の地所となりたりと矯風會雜誌に見ゆ

●貴婦人の金員醵集　今回の日清事件に付有栖川宮妃殿下幷に各宮妃殿下は海外に派遣されたる我軍隊の勞苦を察せられ物品を寄贈して其勞苦を慰められんと企圖せられしに大臣及び有爵者の貴婦人も奮然主唱者となり他の貴夫人方の贊同を求めんと去る一日附にて書面を發せられたり主唱者は左の如し

公爵夫人　毛利安子
仝　岩倉久子
仝　德川泰子
仝　鷹司順子
仝　二條洽子
仝　近衞貞子
仝　島津田鶴子
仝　一條良子
公爵三條公實母　三條治子
侯爵夫人　淺野綱子
仝　蜂須賀隨子
仝　鍋島榮子
仝　池田鑑子
仝　四條春子
仝　前田朗子
仝　德川總子
仝　中御門直子
仝　嵯峨仲子
仝　中山勝子
仝　德川良子
仝　木戶壽榮子
仝　黑田清子
仝　松本節子
仝　佐竹祚子
侯爵細川護成母　細川宏子
子爵夫人　長谷梓子
伯爵夫人　伊藤梅子
仝　井上武子
仝　西鄕清子
仝　松方滿左子
伯爵夫人　大山捨松
仝　黑田瀧子
仝　大隈綾子
仝　後藤雪子
仝　川村春子
仝　佐々木貞子
仝　戶田極子
仝　前田敞子
仝　小笠原純子
子爵夫人　大村憲子
仝　土方龜子
仝　樺山登茂子
從二位夫人　芳川貞子
仝　陸奧亮子
子爵夫人　高島春子
仝　田中すま
仝　三好梅子
仝　仁禮壽賀子
仝　長岡知久子
仝　河瀨英子
仝　杉千世
仝　清岡覺
仝　田中伊與子
仝　香川須磨子
仝　岡部抵子
仝　秋元宗子
正三位夫人　井上鶴子
男爵夫人　本田梅子
仝　井上光子

◎日本赤十字社錄事

●寄付金件　今回朝鮮事件に關し本社事業費の内金品寄付申出たるもの左の如し

一晒木綿三十段
一金五拾圓
一金壹圓
一金壹圓
一梅干五樽　三斗入
一金參圓
計金五拾五圓　物品二種

廣島縣正社員　寄盛數馬
兵庫縣正社員　三崎安二郎
同　三谷弘造
同　小崎廣吉
同　加納辰三
宮城縣　鈴木志惠
同　亘理きう
大坂府贊助社員　安井源次郎
東京府正社員　寄木鎭鄕

△本誌前號正誤　十頁下段三行、才前は寸前、十三頁下段、文檀は文しらべ、二十頁下段十五行、東波は東坡の誤植なり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤女學院第七月分報告

●寄附金之部

金八圓　東京　ミス、フルベッキ
仝二圓六十一錢　仝　日高善兵衛氏
仝三圓　仝　青山英和女學校王女會
仝一圓五十一錢　仝　明治女學校愛之睦
仝卅四錢　仙台有志紙屑代（佐々木氏取次）
仝三圓　大坂　松波秋質氏
仝五十錢　東京　井口春久、常雄兩氏
仝一圓　埼玉　婦人傳道會
仝五十錢　仝　無名氏
仝十五錢　長崎　河野次作山口勝一兩氏
仝十三錢　但馬　淺田久万藏氏
仝八圓　東京　ミスゲツプ
仝三圓二十錢三厘　仝　日高善兵衛氏
合計金三十一圓九十四錢三厘

●支出之部

一金四十圓九十三錢六厘　米代
一仝五圓九十二錢　肉野菜代
一仝二圓八十九錢六厘　味噌醬油醬代
一仝三圓七十二錢　炭薪油代
一仝二圓四十七錢　器具代
一仝三圓四十二錢五厘　教育費
一仝十一圓五十六錢八厘　病人費
一仝三圓八十七錢　乳兒病兒牛乳代
一仝五圓五十錢　給料及手當金
一仝貳圓拾五錢　蚊帳代
一仝七拾壹錢七厘　履物代
一仝貳圓五拾二錢　運搬賃車力及人力代等
一仝四拾錢　郵稅
一仝七拾七錢　染粉類
一仝拾錢　紙代
一仝七拾五錢三厘　雜費
合計金八拾七圓七拾壹錢五厘

●第七月分收支決算表

一金貳拾貳圓八拾七錢　前月ヨリ越高
一仝三拾壹圓九拾四錢三厘　七月分寄附高
一仝三拾貳圓九拾錢貳厘　實業部ヨリ收入高
合計金八拾七圓七拾壹錢五厘
一金八拾七圓七拾壹錢五厘　七月分支出高
差引過不足ナシ
第七月分實業部報告
一金貳拾貳圓五拾錢三厘　前月ヨリ越高
一仝拾三圓〇四錢七厘
合計金三拾五圓五拾五錢
一金三拾貳圓九拾錢貳厘　通常經費中へ繰込高
差引殘金貳圓六拾四錢八厘　八月へ越高

●第七月分寄附物品

一單衣五枚　横濱　夏友會
一小供洋服五大人上下衣四外雜品　ミス、ゲツプ
一石筆一箱　北海道　林竹太郎氏
一遊戲具　横濱　東儀タカ子
一團扇六十本　王子　嚴本氏
一そうめん壹箱　東京　井上榮次郎氏
一菓子一袋　東京　河久保氏
一蘇鐵鉢共（會堂用）　王子　無名氏
一教理講話　東京　基督教革新會
一わらべ每號六部づゝ　仝　無名氏
一女學雜誌評論每號　仝　女學雜誌社
一婦人矯風雜誌　仝　婦人矯風會
一禁酒雜誌　横濱　禁酒會
一信仰之友　東京　有信社
以上
總員五拾九名

北豐島郡瀧野川村七百四十三番地
孤　女　學　院

第二回女子夏季學校廣告

來三十日午后四時より横濱山手百七十八番館フエリス女學校に於て開校す◎聽講料一人二十錢、寄宿料一日十錢、夜具は別に貸借を要す◎聽講は女子のみとすれども附添の父兄及女子教育に從事する又は從事せる男子の來會は差支なし◎九月七日午后七時閉校◎右廣告す

第二回女子夏季學校　書　記

明治女學校生徒募集

普通二年級へ（小學高等科卒業相當の者）廿名、同三年級へ十名、高等文科一年級へ五名入學を許す志願の者は九月十日迄に申出べし●小學全科卒業の者は入校后三年にして普通科を全了するを得●學資は授業料每月一圓二十錢寄宿料一切三圓八十錢圖書費一年間凡そ一圓乃至二圓程とす

東京麴町區下六番町六番地
明　治　女　學　校

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京通信社

新聞切拔廣告

切拔通信の要旨

●全國の新聞紙無慮百數十種日々掲載する所の事項千差萬別世人の必す知らさるへからさるもの擧て數ふへからす然れども全國の新聞紙を一集して盡く之を各自に通讀せんこと人事の繁多なる今日に在て容易に爲し得へきにあらす是本社の嘗て新聞切拔通信の業を創始し以て江湖必須の需めに應せんと欲する所以なり

●切拔通信をなすへき概目は農工商業政治法律外交貿易政黨倶樂部教育宗教歴史詩歌運輸交通土木建築鑛業山林美術技藝各人身上に關する事等凡そ諸新聞紙上掲載の件は小説廣告に至るまて其委托に應し精閲遺漏なく勉めて配達を迅速にして以て愛讀者の便益を期す

東京市京橋區釆女町廿壹番地
東京通信社附屬
新聞切拔通信部

明治廿七年八月

切拔手數料大要

●一己の身上に止まる信通は壹ヶ月金貳拾錢とす

●一事業又は一事物に止まる通信は壹ヶ月金參拾錢より金五拾錢まて

●一會社又は一團體の全般に關する通信は壹ヶ月金五拾錢より金壹圓まて

●前記の事項と雖とも關係の範圍廣く日々記事の多數なるものは臨機の契約を爲すことあるへし

●月數に拘はらす件數にて委托せらるゝものは東京は拾件に付金貳拾錢地方は郵税を併せ金參拾五錢とす尤も細事項は總て號外として件數に算入せす

●本社切拔通信規則書御入用の方は御通知次第郵送すへし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌(第三百九十二號)(明治廿五年三月十五日遞信省認可)明治廿七年八月十一日發兌

基督教新誌第二號目錄

社説

聖書的教會

講壇

勤勉と懶惰　大平八郎

論説

靈性の修養　悠々子
神の國の途　信堂學人

寄書

婦人の天職　蛇大生
『花嫁』事件裁決に就き　覩淵盡

雜錄

敬神　愛櫻生
夏の朝　越水生
鐘を詠む歌(ロングフェロー)　赤石一
よろぎがやど　小蛇生

時評

日本基督教會の大會を觀る○咄々○古の眞宰眞將○避暑○異端○亦有仁義而已矣

教會

小兒欄

本郷、牛込、四谷
神之を見給ふ
麥の穗
子供と林檎籠

一冊郵税共金三錢

發行所　麹町區下六番町拾三番地　基督教新誌社

賣捌所　女學雜誌社書店

女生徒募集

來ル九月十一日始業。各級入學ヲ得。規則書望ミノ方ハ郵劵二錢ヲ送ラレヨ。

東京京橋區新榮町

私立　立教女學校

評論　第廿六號要目

知行安合一論　知と行と平安と、三者異躰か、異躰同性かこゝに其の合一を論明して別に陽明先生に問ふ。

日本人海外傳道論　方今我黨の大策は、日本人海外傳道に着手するより善きはなしと、些さか抱負を吐て小經綸を訴ふ。

こだま集　茲に文壇の新才子、其妙えなる詩想を新らしき吟躰に寓し、以て世上の知己に問はんとす。讀者特に一顧せよ。

大勢一轉を看取す　眇か、聽か、われ知らず。茲に自己眼睛に玲瓏として映出する所ろを斷言す、ひとり知人の同情同熱をまつ耳。

女學雜誌前號要目

女生徒の卒業と婚嫁　女學生、家を成して評判あしきは何故ぞ、其罪、教育にあらず、彼女にあらず、寧ろ父兄と良人とに在る所以の新説を表白して、大ひに世の人を驚ろかす。左れど之れ驚くべきに非ず、當然の理也。

德川家康老後の敎　此の老偉人が如何に周細巧妙なるかを見よ。經驗は神聖也、就中、偉人の經驗は、尤とも神聖なり。

普魯士亞獨立戰爭に於ける哲學者大牧師　「吾國民」を招くフレデリツキ王の檄告たりし、ナポレオン大帝の威權尙ほ赫々たり。時にベルリン大學の哲學者及び大牧師は何如にして起ちし。須らく深邃にして高貴なる達人の慷慨を聞くべし。

皇后宮陛下の御敎　陛下さきに華族女學校に行啓あり、例を千古今に引き、感慨を當今にもらし縷々數千言御教を校長に垂れさせ玉ふ、傳聞し奉つるもの、何人か感泣せざらん、謹みて拜讀せよ。

紅葉が隣の女　あゝ此の一小說、麗語ありて險語なく艷詞ありて淫詞なし夏日榻上に一と度び讀みて些さか人生に悲しむ所ろあらうず。

本誌 冊數	定價前金	市外定價郵税共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

發行所　東京府北豊島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社
編輯兼發行人　嚴本善治
印刷人　堀口庄三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)